

《総長候補者所信表明》

The opinion to be the Chancellor by Chancellor Candidate

【候補者 Candidate】

所属 Affiliation	立命館大学 総合理工学院理工学部	職位 Job Title	教授 総合理工学院副学院長 理工学部長
フリガナ 氏名 Name	サカネ マサオ 坂根 政男 坂根政男		
年齢 Age	62歳	学位 Degree	工学博士（立命館大学）
研究分野 Research Field	材料力学（多軸応力下における高温機器の信頼性評価法）		

【所信表明 The opinion to be the Chancellor】

（＊日本語の場合は 2,000 字以内／In English, within 650words）

今回の総長選挙における、私の所信を述べます。

まずは全ての出発点となる、私がめざす学園像です。立命館は、立命館大学、APU、5つの附属校から構成される総合学園ですが、私は、それぞれの学校が、学生・生徒・児童の生き生きと学べる場となり、正課・課外を通して確かな学力を身につけ、人間的な成長を実感できる学園であるべきだと考えています。そして、先生方の教育と研究が生き生きと進められ、職員の方々の各職場での創意と工夫が着実に実践できる職場風土が醸成された学園であるべきだと思います。そのためには、教育や研究の現場を大切に、現場からの意見が最大限に尊重される学園運営が必要です。私は、こうした自己発展的な取り組みで立命館らしい国際的にも個性を有した学園像を実現できると確信しています。

しかし、立命館の現状を直視すると、私のめざす学園像を実現できるような状況には必ずしもないことに、深い危惧を覚えています。とりわけ過去5年間に、立命館に生じた様々な事柄を振り返ると、真に学生・生徒・児童、そして教職員の立場に立った学園運営を貫けていたのかという点について、大きな疑問が残ります。具体的には、一時金問題や最近の新キャンパス問題が典型例として挙げられると思います。私は、学園運営の基本原則に立ち返り、これまでの経緯を検証し、今後の民主的な運営のあり方を検討し、新総長がリーダーシップを発揮して実践していく必要があると考えています。

次に、私が重点であると考え5つの学園課題について述べます。

第一は、新キャンパス問題です。学園の各キャンパスについては、日常的な改善視点が必要ですが、特に衣笠キャンパス狭隘化の改善については、全学的な認識が一致していると思います。しかし、そのことが、茨木での大規模キャンパス取得という結論に直結するのかという点については、慎重な判断が必要だと思っています。つまり、キャンパス取得が先行するのではなく、衣笠狭隘化の改善や今後の各学部の教学改革議論を受けて、学園の財政力量に見合った新キャンパスの合意を丁寧に議論すべきです。現在の常任理事会に

において、私は、学園の将来に責任を負う学部長理事として、一貫してこうした問題点を指摘する意見を発信しています。

第二は、新中期計画の具体化に向けた全学の教学改善課題です。新中期計画の各委員会では、2020年に向けた改革の最終案の取りまとめが進められています。本来はこの議論の全学討議を受けて、それを各学部の教学改革へ具体化していく必要があります。その後、各教学改革案に対する優先順位化と財政的な裏付け作業を行い、可能なことから順次実行に移すべきだと考えています。そして、併行して、衣笠の狭隘化の解消、教学改革や学生の課外活動等を支える施設整備の諸条件等を総合的に勘案した議論が展開され、適切な新キャンパスの具体化を判断することになると思います。

第三は、学費問題です。新中期計画を支える財政課題においては、学費のあり方の議論が避けられません。私は、現在の学費および奨学金政策は見直されなければならないと考えています。そのためには、あらゆる学内外の状況を勘案した総合的な検討が必要ですが、少なくとも次年度を待たずに、学費問題について早急に議論のできる準備を開始したいと考えています。学費水準に関して、どれだけの改善努力が可能かについて、同時に精査したいと考えています。奨学金政策も、成績優秀者の奨励とともに、高等教育の機会を保障する観点からすれば、経済支援重視の奨学金拡充が必要であると考えています。

第四は、APUの課題です。開学10周年で高い到達点を築いたAPUは、学園の貴重な存在であり、その強みを学園全体で積極的に活かして国際化を推進することが、APUの発展をも切り拓くと思います。一方、近年は志願者動向を含めた競争的環境の激化が進行しており、優秀な国際学生や国内学生の確保に一層の努力と工夫が求められています。私は、今こそ、学園全体の力とAPUの力を結びつけて、国際社会で活躍できる人材育成をさらに強めていくことが重要であると考えています。

第五は、附属校の課題です。私は、6500名を超える児童・生徒の学びと成長に責任を持ち、日本の初等中等教育の先進を拓く附属校教育の充実が、学園にとって重要な教学課題だと理解しています。これまでの附属校政策は、大学の規模拡大を入試の志願者構造から支える側面が相対的に重視されており、高大接続教育の充実や双方の教育の質を高めるといった視点がやや弱かったと思います。私は、これまでの一貫教育における児童・生徒・学生の学びと成長の実態と課題を全学で共有していく必要があると思います。また、学園の附属校政策の位置付けを高めるために、附属校関係者の学園運営への参加のあり方が、具体化されるべきだと考えています。

以 上

※この届出用紙は、総長候補者公示の際に、公報として原紙のまま掲載いたします。